

令和 5 年 6 月 21 日現在

機関番号：34517

研究種目：基盤研究(B)（一般）

研究期間：2018～2020

課題番号：18H01612

研究課題名（和文）統一手法を用いた景観復元による琉球弧の伝統的村落空間に関する普遍的原理の探究

研究課題名（英文）Exploration of universal principles regarding traditional village spaces in the Nansei Islands by applying a unified landscape restoration approach

研究代表者

鎌田 誠史（KAMATA, Seishi）

武庫川女子大学・生活環境学部・准教授

研究者番号：70512557

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 8,200,000円

研究成果の概要（和文）：九州の南側を出発点として台湾まで伸びる島嶼郡は「琉球弧（南西諸島）」と呼ばれ、かつて琉球王国の最大版図となっていた。しかしながら、琉球弧の伝統的村落の研究については従来、各地域で個別に追求されやすく、村落構造を統一的に比較・検討する実証的な調査研究アプローチに乏しかった。そこで本研究では、申請者らが沖縄本島・先島の伝統的村落の分析ですでに確立しつつある、統一手法による景観復元を用いた相対的な比較分析手法を広く琉球弧全域に適用することで、同地域の近代以降の著しい変容を経験する以前の伝統的村落空間の地域を越えた集住環境形成技術の普遍的な原理と、地域固有のエコロジカルな環境観の考究を行った。

研究成果の学術的意義や社会的意義

本研究は、これまで個別の専門学域と個別の地域ごとに進められがちであった研究を統合する、新たな村落研究の地平を切り開く研究となる。その成果をもとに琉球弧（南西諸島）の島々に適応する集落景観づくりのモデルを提案し、急速に失われつつある環境形成技術の固有価値をいかした集住環境再構築の実践に還元が期待できる。島嶼社会における自然環境にも対応した集住環境のダウンサイジング（コンパクトな空間活用）や、島嶼型減災に備える「リスクリダクション（危険低減）」、歴史的景観に配慮した景観形成への方途を提言するための基礎データベースを構築した。

研究成果の概要（英文）：The islands extending from the southern part of Kyushu to Taiwan are called the Nansei Islands, and were once the largest territory of the Ryukyu Kingdom. However, research on traditional villages in the Nansei Islands are limited to some case studies in a single region, and empirical studies to compare and examine village structures in a unified approach is largely lacking. In this project, we applied a unified landscape restoration approach which we have established based on our previous studies on Okinawa Island and Sakishima Island. We conducted a comparative study of the traditional villages at the entire territory of Nansei Island and investigated the universal principles and the technology of creating living environments in traditional village spaces across, and the region-specific ecological view of the environment.

研究分野：建築計画

キーワード：南西諸島 集落空間 景観復元 沖縄 奄美大島

様式 C-19、F-19-1、Z-19 (共通)

1. 研究開始当初の背景

琉球・沖縄はかつて、現在の沖縄本島・先島（琉球列島）だけで成り立っていたのではなく、さらに北の奄美群島、トカラ列島、薩南の島嶼を経て、明らかに九州とも連結していた。これら一連の島々は琉球弧（南西諸島）と呼ばれ、かつてその全域が琉球王国の最大版図となっていた時期もあったが、近世期以降は、その支配体系や領域に劇的な変化がみられた。

その中で、申請者はこれまで、近代以降の著しい変容を経験した琉球列島の村落、なかでも近世期に「村立て」（創建・移動・再建）された村落を対象に、復元根拠資料（古絵図、明治期地籍図・土地台帳等）を重ね合わせることによる、同一凡例・同一縮尺・同一（近接）年代での村落空間復元（景観復元）作業を行い、比較分析を進めてきた。その結果、共通してこれらの村落には、近世期に「村立て」される際に、地形的な基点を拠り所としてその位置や領域が設定され、とくに領域の設定をめぐるには村落を囲む人工的な樹林帯を積極的に設けるといった、計画的な手法が採られていたことが見出された。そして、このような圍繞された村落空間を求めるために、伝統的な地理思想に基づいて「村抱護（むらほうご）」などと呼ばれた地形や植林が重要視され、それらの保全や造成が自然環境の厳しい琉球列島の村落の生活空間域を保全する環境形成手法となってきたことを実証した。

一方で、このような計画（政策）的な村落空間の中にも、クサテ思想や聖域を主軸とした旧来の村落構造が踏襲されていたことが明らかとなった。すなわち、旧来の村落の世界観や価値体系の理論を基層構造としつつ、近世の計画（政策）が重ね合わされた結果として、琉球列島の村落空間は構成されていた。このような成果から、かつての琉球王国の最大版図・琉球弧（南西諸島）においては、地域固有の文化や村落構造がみられつつも、その基層構造においては地域を越えた普遍的原理が存在すると仮説した。その仮説を検証するためには、各村落を網羅的かつ横断的に調査し、琉球弧全域の中で統一的に比較する実証的な調査研究アプローチが必要であるという考えに至った。

2. 研究の目的

本研究では、これまでの研究蓄積の活用も可能である琉球弧全域の伝統的村落について、とくに村抱護や石垣等に囲まれた圍繞形態を持つ伝統的村落を中心に取り上げ、三次元モデルを通じた地形条件の相違分析までを可能とする統一手法による景観復元作業を行い、近代以降の変容以前の村落空間を比較分析することで、同地域の伝統的村落空間の地域を越えた集住環境形成技術の普遍的原理と、地域固有のエコロジカルな環境観とを考究することで、伝統的村落を持つ持続原理の究明と地域固有価値の多角的な再評価を行うことを目的としている。

3. 研究の方法

本研究は、南西諸島（奄美大島、喜界島、徳之島、沖永良部島、与論島、沖縄本島、宮古・八重山）及び南西諸島の島々との比較対象として、本研究で対象とした南西諸島の範囲と類似するエリアとなる瀬戸内やエーゲ海の村落を一部ではあるが対象として、調査、記述、比較、分類、論理化する手順で分析を進めた。このうち分析に際しては、地形的条件を示す 1:5,000 地形図（国土基本図）および現行地籍併合図に、米軍空中写真を補正しつつ重ね合わせ、空間復元図の基図を作成した。その上で、各図に現地調査や聞き取り調査、文献調査の成果を加え、各村落の立地条件や、湧水・井戸などの位置、居住域・生産域・聖域の配分構成、居住域内の街区形態などに関する当時の情報を記載し、村落どうしの空間構成を比較・検討した。さらに、地形的条件をより詳細に分析するために、この空間復元図をベースに、国土地理院の数値標高モデルデータを用いた三次元モデル化を行った。そこでは、従来研究における地形条件分類を確認しつつも、それらの研究の多くが最大でも国土基本図レベルの標高データ等を元にしてきたのに対して、本研究では最少で 5m 間隔メッシュ毎の海拔（標高）が得られる数値標高モデルデータを援用した。

それにより本研究は、従来研究では「丘陵」など一括されてきた地形的条件が、第三紀層などが露出した「丘陵」であるのか、実は第四紀を中心として形成された「段丘崖」であるのかといった、詳細な検討を加えた。このような方法によって南西諸島における伝統的村落空間の地域を越えた集住環境形成技術の普遍的原理と、地域固有のエコロジカルな環境観とを考究した。

4. 研究成果

南西諸島（琉球列島および奄美群島）の広い範囲における伝統的集落に対する空間的な比較検討のための基礎資料として、大戦前後に南西諸島の各地を上空から撮影した、米軍空中写真の活用を検討した。加えて、集落によっては 1899（明治 32）～1903（明治 36）年にかけて行われた土地調査である「土地整理事業」以降整備された地籍図や、戦後に製作された「一筆地調査図」などをもとにして、それらの幾何補正を含めたデジタルライズ（デジタル画像化）などを行って作成したベースマップを、148 集落（沖縄本島 20 集落、宮古・八重山 24 集落、与論 2 集落、沖永良部 33 集落、徳之島 37 集落、喜界島 33 集落）について作成した。それをもとに、地形的立地条件ごとでの空間構成の特徴を分析し、類型化した。その分析においては、近代以降の著しい変

容を経験する以前の各村落の空間構造に対する統一的な手法による空間復元図の作成を行い、詳細な標高分布も確認しながら詳しく検討した。

その結果、これまでの沖縄本島および先島諸島での分析結果と合わせて、南西諸島においては何よりも村落の立地およびその空間構成原理の前提として、水源の存在がいかに主軸となってきたのが強調された。加えて、各島の中のさらに一見すると似かよった地形的条件や海拔標高のところでも、その島内での位置に伴う集水域の大小による湧水量の差や、周囲の詳細な地形条件によって、自然湧水に期待するか井戸も開削できるかといった違いが村落ごとにみられることが明らかとなった。また、こうした村落ごとの一帯の、これまで「丘陵」に囲まれているなど一括されていながら、その実態が実は隆起サンゴ礁による段丘崖であるものが混在しているといった詳細な地形の類型化によって、村落内の様々な要素の配置や配分はもとより、居住域の面積規模なども大きく左右される可能性を指摘した。

南西諸島においては生存の根幹にかかわる水を得るため、湧水や集水を最重要視した集落形成がおこなわれ、それらの湧水などの位置や水量によって集落の立地や戸数などの規模が規定されている可能性が示されたが、加えて集落周囲の空間構造については、集落の背後や周囲を圍繞された環境の中に農耕地（生産域）を求めるといったように、厳しい環境の中で自らが生存するための領域が規定されていることが明らかにされた。さらに、地形図や数値標高モデルデータも検討することで、このような領域は、地形などによる「集水域」と一致しやすいことが指摘された。泥岩などによって形成されていることの多い第三紀層と、その上に乗る、多くは石灰岩で構成された第四紀層との境目を水が流れやすい南西諸島において、飲用水や農業用水を得るための湧水ポイントは概ね共通しており、それが集落の立地、農耕地の範囲、のちの集落の再構成、各所の聖地化を規定し、前述の「集水域」を強い前提として人々の生存領域が形成される点は、人々が生存をかけて構築してきた、南西諸島を貫く伝統的な環境対応であると想定している。

具体的には、このような生存のための領域の設定をめぐって、例えば南西諸島のとくに低島においては、極めて平坦な土地の中で、極めて小さな標高差の微地形を読みとりながらその領域を設定したり、居住域や生産域を囲む丘陵や樹林帯「村抱護（むらほうご）」によって人工的な圍繞空間を形成したりといった、地形的立地条件によって規定される領域形成と、普遍的な空間形成原理が存在してきたことが挙げられる。なお、このような領域は、「字」などいわゆる行政的な領域とは必ずしも一致しないことを確認しており、また、いわゆるムラ（村落）とも必ずしも同一視できない、生活空間というよりは生存そのものための空間といえよう。

このような各村落に立地する一帯の地形的条件に応じた空間構成原理が南西諸島内の広い地域で普遍的に確認できるかどうかを明らかにするための、各村落を統一的な手法で比較する実証的な調査研究アプローチは、南西諸島全域において必要と思われる。今後も、引き続き範囲を広げて検討を進めたい。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計34件（うち査読付論文 10件 / うち国際共著 5件 / うちオープンアクセス 5件）

1. 著者名 山本正昭	4. 巻 -
2. 論文標題 首里城の原点についての一考察 グスク時代の遺跡で見られる隔離空間を再考する	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 『首里城を解く 文化財継承のための礎を築く』	6. 最初と最後の頁 13-29
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 山本正昭	4. 巻 -
2. 論文標題 福建省沿岸部に分布する城郭遺跡の類型化とその特徴 琉球列島に所在する城郭遺跡検証過程での想定枠 充実の試み	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 『東アジアにおける南島研究 南島史学会創立50周年記念論集』	6. 最初と最後の頁 123-142
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 山本正昭	4. 巻 98
2. 論文標題 明朝が築いた福建省の城郭 城郭としてのグスクの特徴を考える	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 しまたてい	6. 最初と最後の頁 48-51
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 山田浩世	4. 巻 -
2. 論文標題 近世琉球における被葬認識の変化 祖先をどう祀るか	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 葬墓制からみる近世琉球社会	6. 最初と最後の頁 18-24
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 渋谷鎮明	4. 巻 16号
2. 論文標題 韓国における「白頭大幹」の評価と「脈」の論理	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 貿易風（中部大学国際関係学部）	6. 最初と最後の頁 71-82
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 鎌田誠史、山元貴継、浦山隆一、渋谷鎮明、齊木崇人	4. 巻 第87巻 第791号
2. 論文標題 南西諸島・喜界島における村落の地形的立地条件と空間構成の特徴 - 第二次世界大戦前後の村落空間の復元を通じて -	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 日本建築学会計画系論文集 2022年1月	6. 最初と最後の頁 76-87
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.3130/aija.87.76	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 山田浩世・前田勇樹	4. 巻 -
2. 論文標題 第4章 文献史料	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 沖縄県立埋蔵文化財センター発掘調査報告書第114集 中城御殿跡 県営首里城公園 中城御殿跡総括報告書	6. 最初と最後の頁 60-77
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.24484/sitereports.130793	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 山田浩世・小野百合子	4. 巻 1024
2. 論文標題 戦後沖縄における資料収集・編纂と近年のデジタルアーカイブの取り組み	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 歴史学研究	6. 最初と最後の頁 28-39
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 澁谷鎮明	4. 巻 17号
2. 論文標題 韓国風水論はいかに展開したか(崔元碩『人間の地理 韓国風水の人文学』(韓国語) pp.19-53の翻訳)	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 貿易風(中部大学国際関係学部)	6. 最初と最後の頁 90-106
掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 山元貴継、浦山隆一、鎌田誠史	4. 巻 32号
2. 論文標題 沖縄における「格子」状集落の計画性	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 武庫川女子大学生生活美術研究所紀要	6. 最初と最後の頁 128-138
掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 山本正昭	4. 巻 第74巻第2号
2. 論文標題 グスクをめぐる解釈と到達点についての提要	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 古代文化	6. 最初と最後の頁 97-105
掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 山本正昭	4. 巻 第41号
2. 論文標題 グスク時代における石積み技術と高層化の相関性について	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 南島考古	6. 最初と最後の頁 47-60
掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 任 亜鵬、鎌田誠史	4. 巻 VOL 37 NO.269
2. 論文標題 The Practice of Contemporary Residential Engagement Communities in Japan: Taking the Maitamon Project as an Example	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 HUAZHONG ARCHITECTURE	6. 最初と最後の頁 22-29
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 該当する

1. 著者名 鎌田誠史	4. 巻 7
2. 論文標題 「抱護」と沖縄の村落空間	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 生活環境学研究	6. 最初と最後の頁 34-39
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 鎌田誠史他	4. 巻 7
2. 論文標題 「抱護」と沖縄の村落空間	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 令和2年度公益社団法人久米国鼎会文化講座	6. 最初と最後の頁 掲載決定
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 山下亜紀郎・山元貴継・兼子 純・駒木伸比古・李 虎相・橋本暁子	4. 巻 15
2. 論文標題 韓国の地方都市における業種構成と景観形成からみた中心商業地の変容 - 忠清南道・公州市の事例 -	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 都市地理学	6. 最初と最後の頁 80-91
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 塩谷香帆・鈴木健斗・蓑 豪輝・山元貴継	4. 巻 15
2. 論文標題 工場跡地に立地した複合商業施設をめぐる利用者（車）の動き - 静岡県浜松市浜北区の「プレ葉ウォーク 浜北」を事例に -	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 都市地理学	6. 最初と最後の頁 156-166
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 山本正昭	4. 巻 -
2. 論文標題 『グスクとは何か』をめぐって グスク論争を中心にして	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 グスク・ぐすく・城 動乱の時代に生み出された遺産	6. 最初と最後の頁 66-71
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 山本正昭	4. 巻 13
2. 論文標題 明朝が設置した福建省における城郭の特徴とその成立背景 14世紀後半・洪武期の築城ラッシュを考える	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 沖縄県立博物館紀要	6. 最初と最後の頁 43-64
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Chen, B. and Liang, L.	4. 巻 19
2. 論文標題 - Old-growth trees in homesteads on the Ryukyu Archipelago, Japan: uses, management, and conservation	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 Small-scale Forestry	6. 最初と最後の頁 39-56
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.1007/s11842-019-09430-8	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 該当する

1. 著者名 Chen, B., Nakama, Y.	4. 巻 18
2. 論文標題 Dimensions and Conservation of Remnant Homestead Windbreaks on a Small Island-A Case Study of Taketomi Island, Okinawa Prefecture, Japan	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 海岸林学会誌	6. 最初と最後の頁 4-12
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 渋谷鎮明	4. 巻 14
2. 論文標題 朝鮮時代の地誌と地理書にみる「水口」概念	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 貿易風	6. 最初と最後の頁 63-69
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 山田浩世	4. 巻 42
2. 論文標題 「史料紹介 東京都立中央図書館特別文庫室蔵『琉球學制文事資料』中の「琉球資料」について」	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 沖縄史料編集紀要	6. 最初と最後の頁 124-147
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 山田浩世	4. 巻 1
2. 論文標題 沖縄における歴史編纂事業の成果と課題	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 琉球沖縄歴史	6. 最初と最後の頁 24-27
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 任 亜鵬、鎌田誠史、齊木崇人	4. 巻 77
2. 論文標題 「道家思想」からみた吊脚楼の空間構造に関する研究	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 芸術工学会誌	6. 最初と最後の頁 134-141
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.24520/designresearch.77.0_134	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 該当する

1. 著者名 鎌田誠史	4. 巻 6
2. 論文標題 地方都市における空き家所有者の管理実態・活用意向の分類から見た空き家活用の阻害要因の考察	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 生活環境学研究	6. 最初と最後の頁 12-21
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 兼子 純、山元貴継、橋本暁子、李 虎相、山下亜紀郎、駒木伸比古、全 志英	4. 巻 14
2. 論文標題 韓国地方都市の中心商業地における店舗構成の変化	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 都市地理学	6. 最初と最後の頁 74-86
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 該当する

1. 著者名 山田浩世	4. 巻 841
2. 論文標題 近世琉球における王府組織の編成と運営	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 日本歴史	6. 最初と最後の頁 17-32
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 石井龍太、山本正昭、阿部常樹、久我谷溪太、浦山隆一、鎌田誠史	4. 巻 38
2. 論文標題 宮古島狩俣集落 土壘調査概報	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 東南アジア考古学	6. 最初と最後の頁 57-61
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 山本正昭	4. 巻 3
2. 論文標題 琉球列島における15世紀から17世紀にかけての集落遺跡にみる変容 沖縄本島を中心に	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 最新の研究成果に見る宮古の歴史	6. 最初と最後の頁 81-96
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Chen, B., Nakama, Y.	4. 巻 17
2. 論文標題 Dimensions and spatial distribution of remnant Garcinia Subelliptica tree belts surrounding homesteads in a coastal village- A case study of Shiraho Village, Okinawa Prefecture, Japan -	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 海岸林学会誌	6. 最初と最後の頁 11-16
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 該当する

1. 著者名 仲間勇米、来間玄次、仲田栄二、陳碧霞	4. 巻 65
2. 論文標題 多良間島の御嶽林に関する調査研究	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 琉球大学農学部学術報告	6. 最初と最後の頁 91-146
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 澁谷鎮明	4. 巻 13
2. 論文標題 現代韓国における風水地理思想の学術的評価 不動産・都市研究分野を中心に	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 貿易風	6. 最初と最後の頁 56-67
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 澁谷鎮明	4. 巻 21
2. 論文標題 古地図と近代地図のはざま 明治期に日本で作製された朝鮮全図とソウル都市図	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 アリーナ	6. 最初と最後の頁 153-167
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

〔学会発表〕 計44件(うち招待講演 5件/うち国際学会 4件)

1. 発表者名 山本正昭
2. 発表標題 グスク時代の争いの様相と武器・武具の実態
3. 学会等名 令和3年度沖縄空手アカデミー 第1回研究報告会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 山田浩世
2. 発表標題 近世琉球における被葬認識の変化 祖先をどう祀るか
3. 学会等名 第43回南島文化市民講座「葬墓制からみる近世琉球社会 祖先と子孫の対話」
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 山元貴継
2. 発表標題 沖縄本島・旧勝連間切南風原村における「格子」状集落の成立
3. 学会等名 「生き続けるモンスーンアジアの 持続可能な集住環境の叢智の探求」研究会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 山元貴継
2. 発表標題 台湾歴史地理学研究における地籍資料の可能性と課題
3. 学会等名 日本地理学会（台湾の地理研究グループ）
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 山元貴継
2. 発表標題 九州地方南部における「城」と「城下町」の 地方的特殊性 - 高等学校地理歴史科などにおける教材化を目指して -
3. 学会等名 人文地理学会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 山元貴継
2. 発表標題 近世琉球における「格子状集落」の成立をめぐる一試論
3. 学会等名 シンポジウム「近世琉球における「格子状」集落の成立をめぐる一試論」（於沖縄県立博物館・美術館）
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 山元貴継
2. 発表標題 地籍図と現地調査から見た 沖縄の「ムラグシ（村立て）」
3. 学会等名 鶴見大学文化財学会シンポジウム（於鶴見大学）（招待講演）
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 山元貴継、鎌田誠史、浦山隆一、澁谷鎮明
2. 発表標題 沖縄県における明治30年代の「屋敷地番」とその活用
3. 学会等名 日本地理学会2022年秋季学術大会（於香川大学）
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 Chen, B.
2. 発表標題 Traditional Rural Landscapes on the Ryukyu Archipelago, Japan: Historical Context, Geographical Extent, and Conservation Prospects.
3. 学会等名 Japanese and East Asian Development in the Long 19th Century: A Critical Reappraisal, A workshop by the Department of Japanese Studies (Invited)
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 Chen, B.
2. 発表標題 Management and conservation of old-growth homestead windbreak on the Ryukyu Archipelago, Japan.
3. 学会等名 IUFRO 3.08.00 Small-scale Forestry Conference 2022 with the cooperation of 9.06.00 Forestry Law and Environmental Legislation.
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 Chen, B.
2. 発表標題 Utaki and Ashagi Sacred Forests on the Ryukyu Islands: Vegetation Structure and Conservation Management Challenges.
3. 学会等名 Sacred Forests of Asia Spiritual Ecology and the Politics of Nature Conservation.
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 山本正昭
2. 発表標題 第一尚氏によるグスクの改変について
3. 学会等名 令和4年度沖縄文化協会公開研究発表会
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 山本正昭
2. 発表標題 グスクにみる石積み技法の変遷
3. 学会等名 沖縄考古学会 5月研究定例会
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 鎌田誠史
2. 発表標題 「抱護」と沖縄の村落空間
3. 学会等名 公益社団法人 久米国鼎会 令和元（2019）年度公開文化講座（シンポジウム）招聘（招待講演）
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 塩谷香帆・山元貴継
2. 発表標題 現行高等学校地図帳に対する評価 - 地名採用数・地形表現を中心に -
3. 学会等名 日本地理教育学会（於常磐大学）
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Jun KANEKO, Nobuhiko KOMAKI, Takatsugu YAMAMOTO, Akio YAMASHITA, Akiko HASHIMOTO, Ho-sang LEE
2. 発表標題 Changes in spatial structure and store composition in the central commercial district of Buryeo-Gun, South Korea
3. 学会等名 第14回 日韓中地理学会（於岡山大学）
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 山元貴継・鎌田誠史・浦山隆一
2. 発表標題 沖縄本島・勝連南風原集落と「モトジマ（元島）」
3. 学会等名 人文地理学会（於関西大学）
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 山下亜紀郎・山元貴継・兼子 純・駒木伸比古・橋本暁子・李 虎相
2. 発表標題 韓国の地方都市・公州市における近年の中心商業地の変容
3. 学会等名 人文地理学会（於関西大学）
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 山元貴継
2. 発表標題 朝鮮半島における「邑城（ウプソン）」について
3. 学会等名 グスク関連シンポジウム「形から見たグスクの原点を探る」（招待講演）（沖縄県立美術館・博物館）（招待講演）
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 山元貴継
2. 発表標題 島津藩周辺地域における「麓」集落の構造と近・現代における変容
3. 学会等名 日本地理学会（駒沢大学）
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 山本正昭
2. 発表標題 いわゆるグスクとは何か グスク論争から半世紀を経て
3. 学会等名 第59回古代山城研究会例会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 山本正昭
2. 発表標題 福建省に分布する倭寇関連の城郭遺跡 14世紀後半から16世紀半ばにかけて
3. 学会等名 令和元年度 地域の特色ある埋蔵文化財公開活用事業第3回シンポジウム『海域アジアの倭寇について考える』「福建省に分布する倭寇関連の城郭遺跡 14世紀後半から16世紀半ばにかけて」
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 山本正昭
2. 発表標題 福建省に分布する明代の城郭遺跡について 14世紀後半に構築された所城
3. 学会等名 沖縄県立博物館・美術館 博物館特別展関連シンポジウム『形から見たグスクの原点を探る』
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 渋谷鎮明
2. 発表標題 朝鮮時代の農書に見る相宅の条件
3. 学会等名 歴史地理学会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 渋谷鎮明
2. 発表標題 韓国における「白頭大幹」の評価と「脈」の論理
3. 学会等名 日本地理学会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 鎌田誠史
2. 発表標題 空中写真にみる沖縄の村落空間
3. 学会等名 平成30年度 沖縄県公文書館公文書活用講座（招待講演）
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 鎌田誠史
2. 発表標題 総合討論の司会
3. 学会等名 平成30年度地域の特色ある埋蔵文化財公開活用事業第5回シンポジウム「宮古諸島における15世紀～17世紀の集落-残された「モノ」から読み解く-」
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 塩谷香帆、鈴木健斗、蓑 豪輝、山田篤志、山元貴継
2. 発表標題 静岡県浜松市浜北区の複合商業施設「プレ葉ウォーク浜北」をめぐる来場者（自動車）の動き
3. 学会等名 経済地理学会中部支部例会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 兼子 純、山元貴継、橋本暁子、李 虎相、山下亜紀郎、駒木伸比古、全 志英
2. 発表標題 韓国地方都市の中心商業地における店舗構成の変化 - 釜山大都市圏・梁山市を事例として -
3. 学会等名 日本地理学会秋季学術大会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 山下亜紀郎、駒木伸比古、兼子 純、山元貴継、橋本暁子、李 虎相、全 志英
2. 発表標題 韓国梁山市の新旧市街地における土地利用変化の比較分析
3. 学会等名 地理情報システム学会第27回研究発表大会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 山元貴継
2. 発表標題 地籍図・土地台帳から見た 宮古島の集落
3. 学会等名 平成30年度地域の特色ある埋蔵文化財公開活用事業第5回シンポジウム「宮古諸島における15世紀～17世紀の集落-残された「モノ」から読み解く-」
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 山元貴継、岡崎菜乃
2. 発表標題 岐阜県旧益田郡萩原町における地主 - 小作関係 - 0家を中心に -
3. 学会等名 日本地理学会春季学術大会（地図・絵図資料の）GIS研究グループ
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 山田浩世・平野淳平・佐野雅規
2. 発表標題 環境と琉球史 - 1850年代を通じて -
3. 学会等名 沖縄文化協会設立70周年記念シンポジウム
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 山田浩世
2. 発表標題 沖縄における歴史編纂事業の成果と課題
3. 学会等名 琉球沖縄歴史学会設立記念シンポジウム「琉球沖縄歴史研究の未来へ」
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 山田浩世
2. 発表標題 技術交流にみる琉薩関係史 - 海運業者・医師・庖丁人を中心に
3. 学会等名 鹿児島大学国際島嶼教育研究センター例会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 山田浩世
2. 発表標題 近世琉球の国家運営-外交と内政
3. 学会等名 沖縄文化協会賞（比嘉春潮賞）受賞講演
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 山本正昭
2. 発表標題 琉球列島における15世紀から17世紀にかけての集落遺跡にみる変容 沖縄本島を中心に
3. 学会等名 平成30年度地域の特色ある埋蔵文化財公開活用事業 宮古諸島における15～17世紀の集落 - 残された「モノ」から読み解く -
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 山本正昭
2. 発表標題 遺跡から宮古と倭寇との関係を考える
3. 学会等名 宮古郷土史研究会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 陳碧霞
2. 発表標題 Fengshui and Woody Shelterbelt Plantations on the Ryukyu Islands: Historical Background and Conservation Management Challenges
3. 学会等名 InterAsian Connections VI ; Hanoi (Social Science Research Council): Workshop on “ Sacred Forests and Political Ecology: Cosmological Properties and Environmentalty. (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 陳碧霞
2. 発表標題 Fengshui village and fengshui tree species.
3. 学会等名 International Symposium: Ecological Landscape and Cultural Heritage in Rural Society. (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Chen, Bixia
2. 発表標題 Old growth Garcinia Subelliptica Trees as House Windbreak in Ryukyu Archipelago: Cultural and Historical Context, and Present Challenges
3. 学会等名 The 8th EAFES (East Asian Federation of Ecological Societies) International Congress (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 渋谷鎮明・崔元碩・浦山隆一
2. 発表標題 沖縄の風水思想における気脈概念と山の認識 『真喜屋稲嶺風水日記』の記載を中心に
3. 学会等名 歴史地理学会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 渋谷鎮明
2. 発表標題 韓国の「美しい林全国大会」における「村の林」の評価と風水思想の論理
3. 学会等名 日本地理学会秋季学術大会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 渋谷鎮明
2. 発表標題 Fengshui and its Close Resemblance: Symbolic man-made buildings in Mainland Japan
3. 学会等名 Symposium: Ecological Landscape and Cultural Heritage in Rural Society (Fuzhou, China) (国際学会)
4. 発表年 2019年

〔図書〕 計6件

1. 著者名 陳碧霞	4. 発行年 2023年
2. 出版社 南方新社	5. 総ページ数 246
3. 書名 琉球列島のフクギ並木	

1. 著者名 矢ヶ崎典隆・加賀美雅弘・牛垣雄矢編	4. 発行年 2020年
2. 出版社 朝倉書店	5. 総ページ数 174
3. 書名 地理学基礎シリーズ3 地誌学概論 第2版	

1. 著者名 鎌田誠史、山元貴継、浦山隆一 他	4. 発行年 2019年
2. 出版社 株式会社風響社	5. 総ページ数 384
3. 書名 「抱護」と沖縄の村落空間 - 伝統的地理思想の環境景観学	

1. 著者名 陳碧霞, 大田伊久雄	4. 発行年 2019年
2. 出版社 ポードーインク	5. 総ページ数 304
3. 書名 琉球列島におけるフクギ屋敷林の保全と活用 聞き取りによる住民の意識調査から . 『地域島嶼学という挑戦』(池上大佑、杉村泰彦、藤田陽子、本村真編)	

1. 著者名 陳碧霞	4. 発行年 2019年
2. 出版社 榕樹書林	5. 総ページ数 236
3. 書名 近世琉球の風水と集落景観	

1. 著者名 Coggins, C., J. Minor, B. Chen, Y. Zhang, P. Tiso, J. Lam, C. Gultekin.	4. 発行年 2018年
2. 出版社 Routledge	5. 総ページ数 334
3. 書名 China's Community Fengshui Forests ; Spiritual Ecology and Nature Conservation" in Verschuuren, B. and S. Brown (eds) Cultural and Spiritual Significance of Nature in Protected Areas.	

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	山田 浩世 (YAMADA KOUSESU) (00626046)	沖縄県立芸術大学・付置研究所・研究員 (28001)	
研究分担者	浦山 隆一 (URAYAMA TAKAKAZU) (10460338)	富山国際大学・現代社会学部・客員教授 (33202)	
研究分担者	陳 碧霞 (Chen Bixia) (50606621)	琉球大学・農学部・准教授 (18001)	
研究分担者	渋谷 鎮明 (SHIBUYA SHIZUAKI) (60252748)	中部大学・国際関係学部・教授 (33910)	
研究分担者	山本 正昭 (YAMAMOTO MASAHIRO) (80789488)	沖縄県立芸術大学・付置研究所・研究員 (28001)	
研究分担者	山元 貴継 (YAMAMOTO TAKATUSGU) (90387639)	中部大学・人文学部・准教授 (33910)	

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関